

焼酎の肴はキビナゴである。

キビナゴは錦江湾で取れる。知覧からは開聞岳を望むことができる。陸軍特攻隊は知覧基地から開聞岳を越えて、沖繩へ飛んで行ったそうである。桜の小枝を激しく打ち振って、それを見送ったのが「知覧なでしこ隊」の女学生である。知覧には少年兵が寝泊まりした三角宿舍が残っている。「俺が死んだら虫になつて帰つて来る」というエピソードは有名である。実際に、特攻隊が泊まった富屋旅館には虫が1匹飛んで来て、どこかへ消えたそうである。

ソードは有名である。実際に、特攻隊が泊まった富屋旅館には虫が1匹飛んで来て、どこかへ消えたそうである。

わたしが知覧を訪ねた40余年前には知覧には刺し身がなかった。すぐそこが枕崎でカツオが豊富であるはずだが、口にした

# 人は思い違いをする

記憶がない。松浦は海のおい

だが、なんとなく松浦の風景と似ていた。海と漁船と魚のおいである。

己の氏素性を語りたがらないインテリを知っている。教養のないインテリである。氏素性を語らない男が罪を犯す。松本清張の小説もそれである。映画には「白い巨塔」がある。原作は山崎豊子である。主役の田宮二郎の教養のないインテリはすごい。

「病氣にかからん団子」と解釈していたが、薩摩半島や種子島の「かからん」の葉でつくられた草餅らしい。知らなかった。人は思い違いや勘違いをして生きている。

を焼き、井戸の水ですすいで食うそうめんにはかなわない。夜は満天の星である。ごさを敷いてごろ寝をして仰ぐ星座は空想をかきたてる。頻繁に流れ星である。いまは枕崎も車ですぐそこである。知覧の人にカツオを食いに連れて行ってもらっ

て来る人、枕崎のカツオやキビナゴの刺し身を持って来る人、みんな申し合わせたように別々の品を持って来る。

演技だった。田宮二郎も虚実併せ持った人だったのかもしれない。ある種の天才である。知覧の酒盛りに演劇論はない。知覧の人は、わたしに聞かれるとまずい話になるとすぐに知覧弁になる。まったくわからない。大吾と仲間の家族も大歓迎を受けたそうである。大吾も知覧の人になる日が来るのか。嫁は知覧の人か。すると披露宴は知覧になるのか。知覧には「かからん団子」という団子がある。

わたしは、この酒席で、わたしの氏素性のすべて語ったつもりである。理解してもらえない。わたしは

わたしは、この酒席で、わたしの氏素性のすべて語ったつもりである。理解してもらえない。わたしは

わたしは、この酒席で、わたしの氏素性のすべて語ったつもりである。理解してもらえない。わたしは

わたしが知覧を訪ねた40余年前には知覧には刺し身がなかった。すぐそこが枕崎でカツオが豊富であるはずだが、口にした

わたしは、この酒席で、わたしの氏素性のすべて語ったつもりである。理解してもらえない。わたしは

わたしは、この酒席で、わたしの氏素性のすべて語ったつもりである。理解してもらえない。わたしは

わたしは、この酒席で、わたしの氏素性のすべて語ったつもりである。理解してもらえない。わたしは

(松浦市出身)